

## 『二人の女勝負師』

池田眞也

#1 ホテル、叡美の部屋

砂時計が返される。

本のページがめくられる。伊藤看寿詰将棋集『将棋図巧』の九十九番「煙詰」を開く。デスクの上には将棋盤、パソコンの画面には将棋ソフトの横歩取りの局面。研究の休み時間に詰将棋を頭の中で解いている檜井叡美。(20)  
煙詰のページからOL。

#インサート 将棋盤

煙詰の局面から女性二人の手が早送りで詰手順を並べる。  
最初は三十九枚あった駒が最後は三枚だけになる。

#1 ホテル、叡美の部屋

叡美、砂時計を見る。まだ落ち切っていない。

叡美、大きく息をつき、立ち上がる。窓から外を眺める。  
隣のマンションに目が止まる。

#2 ホテルから見えるマンション

ホテルの向かいにマンションが立っている。

ある部屋の中が見える。

木下小百合(28)がソファに座って考え事をしている。

起きているのだが、何をすることもなく、何かひどく落胆しているようだ。

#3 ホテル、叡美の部屋

窓から外を見ている叡美。

携帯電話が鳴る。

叡美「はい……わかりました」

#4 同、ラウンジ

階段を降りてくる叡美。

ポスター、『女流名将戦五番勝負 榎井叡美女流名将対内田理沙子女流三段』の文字と叡美と理沙子の写真

ソファに座っている吉田和則(55)、吉田紀美子(53)、石塚俊之(20)。

くたびれた格好の吉田が叡美を見つけて手を振る。

叡美、彼らの前にやってくる。

叡美「お忙しい中ありがとうございます」

叡美、丁寧に頭を下げる。

吉田「座って」

叡美、俊之をにらみつける。

俊之、照れくさそうに小さな会釈をする。

叡美、俊之に何かを言おうとするのを紀美子が遮る。

紀美子「はい、これ。叡美ちゃんの好きなもの作ってきたわよ」

風呂敷でつつんだ重箱を渡す。

叡美「ありがとうございます。味の濃いものばかり食べてるから。すごく楽しみ」

紀美子「力つけてね」

吉田「元気そうじゃないか。勝てそうか？」

叡美『『将棋のみぞ知る』です』

俊之「言うと思った」

叡美「(俊之に)こんな時に来なくてもよかったのに」

俊之「家にも落ち着かないんだよ。いまさらやることもないし」

吉田をはさんで喧嘩を始める叡美と俊之。

叡美「(強い口調で)棋譜ならべるとか、詰将棋解くとか、いろいろあるでしょ」

俊之「うるせえな。ぶーぶーぶーぶー」

叡美「そうやって時間を無駄にしてるから上がれる将棋を何度も落とすのよ」

吉田「ちよっと……」

俊之「言ってる言いかと悪いことがあるぞ。『さっきは言いすぎた』とか落ち込む前に最初から口閉じてろ！ お前がしゃべらなかつたら世界は平和になるんだよ！」

吉田「ちよっと……」

叡美「私が言わなかつたら一生わからないでしょ。あんたがぼんやりしている間に世界はどんどん進んでるんだからね。横断歩道渡りきる前に信号赤になっちゃうのよ」

吉田「ちよっとお前たち！ さっきから俺が叱られているような気分なんだが！」

背後から声をかけられる。

五反田の声「おはようございます」

叡美、吉田、俊之、紀美子「こんにちは」

三人のもとに五反田孝子(30)がカメラマンの大川(24)を引き連れてやってくる。

五反田「吉田一門おそろいで」

吉田「一門っていつでもこれだけしかないよ」

五反田「(叡美と俊之に)また喧嘩してるの？ あいかわらず仲のいいことで」

叡美「あさってトシくんの誕生日なんです」

五反田「あら、二人だけで大切な夜をすごすのかしら」

俊之「叡ちゃんが僕なんかとつきあうわけないじゃないですか。からかわないでください」

五反田「(俊之を見て)いくつになるの」

俊之「二十一です」

五反田「おめでとうございます」

冷たい視線が五反田に集まる。

五反田「……？」

叡美「年齢制限なんです」

五反田「あ……！！ ごめんなさい」

俊之「僕のことはいいいですから」

五反田、振り返ると大川がいない。探す。

大川、美女に見とれている。

五反田「オオカワ！ さっさと三脚立てる！」

あわてて戻ってくる大川。

五反田、にこやかな顔で叡美に振り返る。

五反田「あの女こてんぱにやっつけてあげて。(ほかの三人に向き直り)ちよつと聞いてくださいよ。

この後内田理沙子のインタビューなんですよ。もう朝から超ブルー」

吉田と俊之笑う。

俊之「怖そう」

五反田「でしょ。榎井ちゃん代わってくれない」

笑いながら首を振る叡美。

大川「……準備OKです」

叡美、五反田が指示した場所に移り、五反田と並んで座る。

五反田「じゃあいいですか。始めて」

大川、カメラをまわす。

カメラマン「はい、まわりました」

五反田「SHOGI専門チャンネルをご覧のみなさまこんにちは。五反田孝子です」

#5 SHOGI専門チャンネルのインタビュー映像

五反田「二勝二敗で迎えた将棋女流名将戦があさって最終局を迎えます。榎井叡美女流名将、五期

連続防衛となるでしょうか、それとも内田理沙子三段がタイトルを奪取するのでしょうか(叡

美に)いよいよ最終局ですが、今の心境をどうぞ」

叡美「どんな将棋であろうと、目の前の局面に全力で向かうことを普段から心がけています」

映像、挑戦者の内田理沙子(30)の映像に変わる。

理沙子「私の将棋人生の総決算と言えるような将棋にするつもりです」

\*

\*

\*

\*

五反田「相手の印象を一言でいうと」

叡美「……居飛車党」

理沙子「妖しい手に惑わされなければ勝つチャンスはあると思います」

\*

\*

\*

\*

五反田「あなたにとって将棋とは」

叡 美 「将棋は将棋です。『将棋』以外のなにものでもありません」

理沙子 「将棋の為にいままで全ての事を犠牲にしてきました」

\* \* \*

五反田 「最終局の抱負を」

叡 美 「いい将棋を指したいです。それだけです」

理沙子 「檜井さんには絶対に負けません」

\* \* \*

五反田 「休日はなにをしてるんですか？」

叡 美 「映画を見たり、買い物をしたり……普通ですよ」

理沙子 「そんなくだらないこと聞かないでいただけますか」

## # 6 SHOGI 専門チャンネル、スタジオ

五反田が理沙子にインタビューしている。

五反田 「失礼しました。ところで内田さんが今まで無冠でいる事が、将棋界の七不思議と言われてい

ますが……」

理沙子 「不思議でもなんでもないわよ」

五反田 「そうですね？」

理沙子 「ちよつとカメラ止めて……止めてったら」

理沙子、大川をこづいて無理やり止めさせる。

五反田「何すんのよ……あ、すみません」

理沙子「将棋の本質を突いた質問しなさいよ。どうせできないだろうけど。ほんとには将棋のことなんて全然興味がないくせに、うわつつらのところだけ見て土足で踏み込んでくる人たちにはホントに虫唾がはしるの。(大川に)だってこの人この間『将棋を打つ』とか言っていましたよ。もうちょっと将棋を知ってる人とかわかってもらえませんか？ 日本語もちゃんと話せない人がなんでこんなところにいるの？」

五反田「……アタシだって必死コイテ生きてるわよ。(切れる五反田)囲碁は『打つ』で将棋は『指す』よ。指す指す指す！ させばいいんでしょ、させば！ いくらでもさしてやるわよ！」

大川、五反田の前に立ちはだかる。

大川「姐さんやめて」

五反田「私がやつつけられておまえは悔しくないのか！」

大川「今度降ろされたら次はないよ」

理沙子は受けて立ってやるわと睨み付ける。

大川、五反田の力に押し切られる。

大川「(出口に誘導しながら)内田さんありがとうございました！」

促されて部屋から出ていこうとする理沙子。

五反田「アタシが今までどんな思いをしながらココにしがみついていたのか、アンタ全然知らないじゃない。将棋が強いからって偉そうにしてんじゃないわよ！ 天才少女崩れが！」

理沙子「……………」



天才少女崩れ（「天才少女」の座は叡美に奪われた）の一言が逆鱗に触れた。理沙子、踵を返し五反田に向かってくる。フレームアウト。  
続きは……？

## #7 道

吉田と紀美子から少し離れて、叡美と俊之が並んで歩く。

叡美「……まだ目があるんでしょ」

俊之「三連勝すれば初段にあがれる。ひとつでも負けたら退会しなくちゃいけない。だから将棋界の人間として会うのは今日が最後になるかもしれない」

頷く叡美。

俊之「来てよかったよ。明日は魂の棋譜を残せる気がする。だから叡ちゃんも……」

叡美「……勝つよね。絶対に勝つよね」

吉田「叡美、ここでいいから。もう戻りなさい」

叡美、深々と礼をする。

叡美「吉田先生、紀美子さん。ありがとうございます」

叡美、俊之の方をむく。

叡美「トシくん。ありがとうございます」

俊之「勝つても負けても明日は連絡しない。先生にも連絡しない。今は自分の対局だけに集中して」  
頷く叡美。

去っていく吉田、紀美子、俊之を見つめる叡美。

# 8 ホテル、叡美の部屋。

紀美子の手作り弁当を食べる叡美。  
ふと窓から外を見る。

# 9 ホテルから見えるマンション

小百合、落胆してソファに座っている。

# 10 俊之の部屋

6畳一間のアパート。

正座をして目を閉じている俊之。  
目を開ける。覚悟は決まった。

# 11 俊之のアパート、外

階段を下りる俊之。

俊之「……………吉田先生」

# 12 その前の道

吉田、笑顔で手をあげる。

# 13 道、朝

吉田と俊之が並んで歩いている。

吉田「俊は東京に出てきて何年になる」

俊之「十年です」

吉田「もうそんなになるかなあ……奨励会試験の日のことおぼえてるか」

俊之「ええ」

吉田「大事な日だというのに、お前が叡美を泣かせてなあ。叡美が、もう行かないとだだをこねた。

丁度このあたりだったんじゃないか。叡美は動こうとせんし、お前はどっかに行ってしまうし」

俊之「……」

吉田「やつとのこととで、会館まで連れてって、どうなることかと思っていたが、いざ対局室に入る

と二人とも将棋指しの顔になっていた。あれはおかしかったなあ」

俊之「あのとき叡ちゃんは僕の四間飛車ではプロには通用しないって言ったんですよ。それで僕が

怒ってしまったんです」

吉田「今日とはかく将棋を楽しんでこい。これが俊なんだという将棋を指して来い」

俊之「行ってきます」

去っていく俊之。その後ろ姿を見つめる吉田。

#14 将棋会館内、奨励会の対局場

畳敷きの大広間に、将棋盤がいくつも並べられ、そのまえに多数の少年たちが正座している。

幹事の棋士「それでは始めてください」

奨励会員たち「よろしく願います」

俊之「よろしく願います」

俊之、初手角道をあける7六歩と指す。指した後すぐには離さず、指に心をこめてから離す。駒を持った手(右手)で脇に置かれたチェスクロックのボタンを押す。

\* \* \*

指す会員①。

指す会員②。

指す会員③。

落ち着いた手で指す俊之。

\* \* \*

考える会員④。

考える会員⑤。

考える会員⑥。

落ち着いた手で指す俊之。

会員⑦ 「負けました」

俊之 「ありがとうございました」

#15 神社

ベンチに座ってぼんやり考え事をしている吉田。

#16 将棋会館内、奨励会の対局場  
会員⑧ 「負けました」

俊之 「ありがとうございました」

#17 ホテル、叡美の部屋

叡美、日本将棋連盟のホームページの奨励会のページを開く。「二級、石塚俊之22北海道」の欄は空白のまま。

フェイド・アウト。

#18 将棋会館内、奨励会の対局場

フェイド・イン。

幹事の棋士の手元の名簿。幹事の手、はんこうを押す。

「石塚俊之」の欄のアップ。「○」が二つ。

「対戦相手」に「増岡久明」の文字。

\* \* \*

俊之、対局する将棋盤の前に立つ。

増岡(13)、床の間を背にして(上座)座っている。当然のような顔をしている。  
俊之、下座に座る。

増岡、駒箱を手に取り、駒を盤の上に広げる。「王将」を取る。

二人、駒を並べる。

増岡、左香(左側の香車)を取って駒箱の中に入れる。

俊之、増岡「よろしくお願いします」

増岡、「7六歩」を指す。

俊之、心を整えて「8四歩」を指す。

増岡、間髪入れずに「6六歩」と指す。

#19 ホテル、叡美の部屋

目を閉じて祈っている叡美。

#20 道

俊之のことを考えている吉田。

# 2 1 将棋会館内、奨励会の対局場

俊之、長考の末指す。

増岡、間髪入れずに指す。

再び長考する俊之。

# 2 2 ホテル、叡美の部屋

俊之のことを考えている叡美。

# 2 3 道

俊之のことを考えている吉田。

# 2 4 将棋会館、奨励会の対局場

俊之、長考している。

増岡、退屈そうに隣の対局を覗いたりする。

俊之、指す。

増岡、間髪入れずに指す。

再び長考する俊之。

必死な形相の俊之と冷静な顔の増岡。

局面は終盤。増岡の攻め駒が、俊之の玉にせまっている。

増岡の勝勢だ。

俊之、増岡にしか聞こえない声で囁く。

俊之「……助けてくれないか」

増岡が驚いて俊之を見つめる。

俊之「ここで勝たないと将棋が指せなくなるんだ。頼む……負けてくれ」

哀願する俊之を見る増岡。

どうしていいかわからない増岡。

#25 ホテル、叡美の部屋

詰将棋を解いている叡美、集中できない。

叡美「だめ、詰まない」

砂時計の砂が落ち切る。

響く駒音。(俊之の運命が決まった瞬間である)

叡美「……!!」

携帯を取り出し電話をかける叡美。

携帯の声「お客様がおかけになった電話番号は電源が入っていないか、電波の届かない場所に……」

窓から外を眺める。

叡美「あ！」



#26 ホテルから見た女のマンション

見ている叡美とのカットバック。

向かいのマンションで小百合と男性が言い争っている。

小百合が包丁を取って男に構える。

刺してみろよ、と近寄る男。

彼を殺すことができない小百合。包丁を下ろす。

男、女から包丁を取り上げると小百合を殴りつけ、部屋から出て行く。

その場に泣き崩れる小百合。

#27 ホテル、叡美の部屋

見ている叡美。

フェイド・アウト

#28 ホテル、廊下

理沙子の後を追いかける担当者。

担当者A「内田さん、お待ちしておりました」

理沙子「……」

担当者A「実は週刊タイム誌から簡単なインタビューを取らせて欲しいと依頼があったのですが」

理沙子「聞いていません。お断りします」

理沙子、足を止める。

理沙子「水……………」

担当者A「なんででしょう？」

理沙子「水が流れていますね」

担当者B「中庭に庭園がございまして、なかなか見事なものです。お時間がありましたら……………」

理沙子「止めてくださいますか？」

担当者A「……………は？」

理沙子「気が散るんです」

担当者A「……………あの、内田さん」

歩いていく理沙子。

#29 流れる水

#30 ホテル、理沙子の部屋

壁に写真をはる理沙子。

天童桜花戦で叡美が三勝〇敗で理沙子を破って防衛したときの将棋雑誌の切り抜き。  
完膚なまでにうちのめされて、うなだれる理沙子の写真。

#31 ホテル、叡美の部屋、夜

叡美、携帯をみている。

日本将棋連盟の奨励会のページ。星取表はつけられていない。  
叡美、外を見る。

#32 ホテルから見た女のマンション、夜

小百合はソファに座っている。

#33 ホテル、理沙子の部屋、夜

理沙子、棋書を読みながら棋譜を並べている。

#34 のぼる太陽。翌日朝

#35 ホテル、カフェ

朝食を食べている理沙子。

杉浦守(32)がやってきて理沙子の前に座る。

理沙子、杉浦を無視して黙々と食べ続ける。

杉浦「対局の前にひとつだけ言っておきたいことがあります」

理沙子「……」

杉浦「理沙子さんがこれから対峙するのはタイトルじゃありません。榎井さんでもありません。理

沙子さんが求めるものは将棋盤の中に必ず隠されています。惑わされないうでください。将棋だけを見るのです」

食べ終わった理沙子。ナプキンで口元を拭きながら杉浦をにらむ。

理沙子、杉浦にコップの水をかける。

無表情の杉浦。

#36 ホテル、叡美の部屋

はかまに着替える叡美。

普通の女の子の顔から、勝負師の顔つきに変わる。

部屋をノックする音。

叡美「どうぞ」

ホテルのボーイが入ってくる。

叡美「そこに」

ノートパソコン、携帯電話、棋書が置かれている。(外部から情報を得てカンニング

行為をしないという意思表示)

ボーイ、預かったものをお盆に載せて出ていく。

#37 エレベーター

の中の叡美。

#38 ホテル、対局室

叡美、草履を脱ぐ。

ふすまを開ける。中からフラッシュの山。

叡美「おはようございます」

叡美、頭を下げると対局室に入っていく。上座に向かう。

理沙子は既に下座に座っていた。叡美を睨みつける理沙子。

叡美、座布団の脇にせんす、時計、ミネラルウォーターのペットボトルなどを置き、

正座をすると理沙子を見る。目と目が合う二人。

叡美、目をそらすと駒箱を開け、駒を将棋盤の上に広げる。

叡美「王将」おうしやうを取ると5九の位置に静かに置く。

理沙子、「玉将」ぎよくしやうを取ると5一の位置に力をこめて置く。うわて(上手が王将)

金、銀、桂馬、香車、角、飛車、歩の順に並べていく。

#39 SHOGI専門チャンネルの映像

駒を並べる叡美。

五反田の声「女流名将、榎井叡美、北海道出身、吉田和則六段門下」

駒を並べる理沙子。

五反田の声「対しまして挑戦者、三段、内田理沙子、愛知県出身、内田邦夫九段門下」

#40 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

ホテルの別室に設けられたスタジオ。

大盤の前には解説の中倉宏美と聞き手の五反田孝子。

五反田「いよいよ第二十四期女流名将戦の第五局が始まります。解説は中倉宏美女流二段です。先生  
よろしく願いたします」

中倉「よろしく願いたします」

五反田「二勝二敗で迎えた最終局ですが」

中倉「現在女流棋界は榎井さんの時代が来そうな勢いですね」

五反田「タイトルも独占しています。ふたりの対戦成績は榎井さんの二十四勝十七敗とほぼ互角と言

つてもいいと思うのですが、内田さんは一度もタイトルを取ったことがないんですね」

中倉「意外ですね。内田さんは決勝五番勝負までは何度も駒を進めているのに、肝心なところでこ  
とごとく敗れているんですね」

五反田「上の世代にやっとなつて勝てるようになったら、タイトルを取る前に榎井さんが彗星のごとく現れ  
ました」

中倉「そうですね」

五反田「結局内田さんの時代は来ないまま終わってしまうんでしょうね」

中倉「そこまでは言ってません」(観客笑う)

五反田「今日はまたこの隣の部屋には控え室が設けられまして、棋士の方々が続々と集まっています。内田三段の兄弟子の杉浦七段も、内田さんの応援でしょうか、研究陣に加わっています。こちらの情報も随時お伝えします」

# 4 1 ホテル、控え室

対局室隣の畳敷きの大広間。

2つのモニターが置かれ「対局室」と「SHOGI専門チャンネル」の映像が流れている。

将棋盤がいくつも並べられ研究の棋士たち、女流棋士、記者、その他関係者がリラックサしている。

# 4 2 パソコンの画面

「女流名将戦」インターネット中継のホームページ。

掲示板の書き込みもまだ多くない。

# 4 3 ホテル、対局室

四十枚の駒が綺麗に並べられた。

記録係が叡美の駒から歩兵を五枚とる。

記録係「檜井女流名将の振り先です」

畳に敷かれた白い布の上に投げる。

「歩」が三枚以上出る。

立会人が時計を見る。

立会人「定刻になりました。榎井女流名将の先手で始めてください。よろしくお願いいたします」  
叡美・理沙子「よろしくお願いいたします」

叡美、角道を開ける。七六歩を指す。しばらく駒から指を離さない。

記録係はストップウォッチを止め、カメラマンのフラッシュがたかれる。

写真を撮り終えるとカメラマンたちは静かに部屋から出て行く。

立会人「再開してください」

記録係、再びストップウォッチを動かす。

目を閉じて深呼吸する理沙子。

飛車先をあける。「八四歩」

#44 ホテル、控え室

棋士たち、理沙子の八四歩を見て「おー」と歓声をあげる。

① 吉田「うわっ！ 内田さんマジだよ」

② 岬「榎井ちゃん、怒るんじゃない？」

#45 ホテル、対局室



後手の8四歩を見て一瞬理沙子を見る叡美。

「受けて立とうじゃないの」と6八銀。

理沙子、ノータイムで3四歩

叡美、ノータイムで6六歩。

#46 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田と中倉。

指し手が進むごとに大盤は動かされる。

五反田「矢倉模様ですねえ。将棋の純文学と呼ばれる一番オーソドックスな形になりそうです」

中 倉「いやあ驚きました。内田さんは第一局と第三局では8五飛車戦法はちごうひしやせんぽうで快勝してますから、今回

も後手番を持ったら横歩取りに誘導するというのが大方の予想だったのですが、まさか矢倉に  
なるとは思っていませんでした」

五反田「それはどういうことでしょうか？」

中 倉「内田さんは自分の得意とする激しい将棋ではなくて、敢えて檜井さんの得意とする持久戦を  
選択したわけです」

五反田「つまり真つ向勝負ということでしょうか？」

中 倉「内田さんの気合を感ずますね」

#47 インターネットの画面

掲示板に徐々に書き込まれていく。

#48 ホテル・前

俊之、入るのをためらっている。

#49 ホテル、控え室

俊之が入ってくる。

みな俊之を一瞬見ると目をそらす。控え室の空気がやや冷たくなる。

俊之、部屋の隅に申し訳なさそうに座る。

俊之の元に棋士の両国と松本がやってくる。俊之気配に気づき顔をあげる。

俊之「(わざとおどけて)よっ」

松本「久しぶり」

俊之「お前から頑張ってるな。いつも見てるよ」

両国「……残念だったな」

俊之「……ああ。増岡って奴は凄いだ。そのうち羽生先生とやることになるんじゃないか」

松本「これからは北海道で働くのか？」

俊之「中卒に仕事があればいいけどな」

両国「……元気だな」

松本「世話になったな」

両国と松本去っていく。

俊之「いつか、……」

両国と松本振り返る。

俊之『今度名人になった奴は、子ども将棋大会の準決勝で俺に負けて泣き出したんだ』って自慢してやるよ」

両国「……四年待ってるよ」

(両国が名人になるのに最短で四年かかるということ)  
戻っていく両国と松本。

#50 ホテル、対局室

中盤に差し掛かる難しい局面を考えている叡美。一瞬外を見る。

#51 ホテルから見た女のマンション

小百合は昨日と同じ場所に座っている。

#52 ホテル、対局室

叡美、将棋盤に目を落とし指す。31手目三七桂。その手が一瞬の間を作った。

理沙子「……!」

理沙子、ノータイムで自信満々に駒を打ちつける。5五歩。積極的に仕掛ける手を指す。

#53 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田 「歩と歩がぶつかりました」

中 倉 「内田さん、一瞬の隙について積極的に仕掛けましたね。これは成立するでしょうか？」

#54 ホテル、控え室

研究の棋士たちの熱が入り出す。

③ 田口 「後手、行けるんじゃない？」

#55 ホテル、対局室

しばし長考の後、叡美が指す。

ノータイムで理沙子指す。

#56 欠番

#57 ホテル、控え室

④ 祥 「内田さん、うまい」

⑤ 角田 「内田持ちたいねえ」

#58 ホテル、対局室

指す叡美。

#59 インターネットの画面

掲示板に書き込まれていく。

「内田リード？」の文面が並ぶ。

#60 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

36手目5四銀。

五反田「ぐいっと出てきましたね」

中倉「味がいいですねえ。内田さん」

#61 ホテル、対局室

指す理沙子。

40手目3六歩。

#62 ホテル、控え室

⑤ 柴崎「どちらかという内田でしょうかね」

⑥ 浅月「内田」

# 6 3 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

40 手目3六歩。

五反田「先生、きました」

中 倉「桂馬が取られそうになりました」

五反田「……困ったんじゃないですか？」

# 6 4 ホテル、対局室

長考する叡美。考えがまとまらず天を仰ぐ。

一心不乱に盤上を見つめる理沙子。

叡美、立ち上がると対局室から出て行く。

# 6 5 ホテル、控え室

控え室に入ってくる叡美。

⑧ 新菜「あ、檜井来た」

研究の棋士たちは盤面を崩す。(研究している局面を対局者に見られないようにするため)

崩される盤面B。

崩される盤面C。

俊之を探す叡美。見つける。

俊之、立ち上がる。

叡美、向かってくる。

叡美「結果は？」

心配そうに俊之を見つめる叡美。

俊之、まわりに聞こえないように小声で言う。

俊之「……勝ったよ。三連勝。当たり前だろ。あんなレベルで将棋指してるオレじゃないっつーの」

叡美、緊張がほぐれ満面の笑みを見せる。

頭から俊之の方にぶつかっていく叡美。

叡美の髪の毛の香りに照れる俊之。

叡美「ずっとそのことばかり考えてた」

周りの人間が不思議そうに二人を見る。

俊之「俺のことはいいからさ、自分の対局に集中しなよ」

叡美「おめでとう、昇段」

俊之「ああ」

去る叡美。立ち止まり振り返る。

叡美「おめでとう、誕生日」

俊之「……ああ」

控え室を出ていく叡美。

杉浦、研究の棋士たちに加わらずモニターを見つめている。

杉浦と俊之、目が合う。俊之黙って頭を下げる。

杉浦も黙って頭を下げる。

#66 ホテル、対局室

対局室に戻り、上座に正座する叡美。

コップに水をそそぐ。

ごくりと飲む。

叡美の目つきが鋭くなる。持ち駒の銀を静かに打つ。

理沙子「……………」

#67 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田「2五桂です。これはただ捨てじゃないんですか？」

中倉「なるほど。とってしまおうと(2五)同飛車で次に2三に打つ歩がないんですね」

五反田、2三桂と打つ。

中倉、2四歩からの変化を並べる。

中倉「これは終わってますね」



#68 ホテル、控え室

⑨ 咲麻「出た！ 檜井ちゃんの妖しい手」

駒を動かしながら

⑩ 桜「これうまそうだね……逆転したんじゃない？」

モニターを睨む杉浦。

#69 ホテル、対局室

長考に沈む理沙子。

動揺する理沙子。

立ち上がって対局室から出て行く。

#70 ホテル、控え室前の廊下

歩く理沙子。背筋を伸ばして凜としている。

控え室から出てくる杉浦。目が合うふたり。

何も言わずに通り返る理沙子。

#71 ホテル、トイレ

足を速めて個室に駆け込む。

苦しそうに息をしながらドアに鍵をかけてもたれかかる。

一筋の鼻血が流れる。

しやがみこむ理沙子。顔を押しさえるハンカチが赤く染まる。

#72 ホテル、対局室

すました顔で入ってくる理沙子。

将棋盤の前に座ると、目を閉じて深呼吸する。

落ち着いた手つきで指す。

#73 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田「内田三段5六歩です」

中 倉「落ち着いてますねえ。ただで取れる桂馬をあえて取りませんでした」

五反田「しかし両者譲らない大熱戦ですねえ」

中 倉「歴史に残る名勝負になるんじゃないでしょうか」

五反田「対局者の思いが伝わってきて、どちらにも勝たせたいですね」

中 倉「……本当にそう思ってます？」

場内大爆笑。

五反田「思ってますけど。それがなにか？(会場に)なにか？ ……大変残念ですがここで皆様とは

いったんお別れして、午後三時から第二十四期女流名將戦の第五局をふたたびお送りいたします。それでは再びこのチャンネルでお会いしましょう」

A D 「CM入りました」

動き出すスタッフ、キャスト。

A D 「では十五時放送開始です。よろしくお願いします」

プロデューサー、中倉近づく。

プロデューサー 「先生ありがとうございます」

五反田、大川からマイボトルを受け取って飲む。

五反田 「おいしい」

笑う五反田。

#74 ホテル、控え室

五反田 「お疲れ様です」

控え室に五反田が入ってくる。

研究の棋士たち 「来た来た」と五反田を歓迎する。

①荻野 「ちよつとは将棋強くなった？ 矢倉知ってたんだね」

②加藤美佐子 『将棋の純文学』なんて言葉昨日ネットで調べたんですよ」

五反田 「そんなにあたしのことが嫌い？」

③志波 「オレ結構好きですよ」

五反田 「(即答)ああ、タイプじゃない！ (一同笑う)ケーキがあるう」

テーブルに置かれたケーキを勝手に取る。自分のはイチゴのショートケーキ。

五反田「(大川に)モンブラン?」

大川、うなづく。五反田、ケーキを取ってやる。

棋士、二人にコーヒーを出す。

五反田「本当のところ、今どっち勝ってんのよ?」

五反田が話に夢中になっている隙に、大川がいちごを食べてしまう。

⑭ 寺部 「五角じゃねえか」

⑮ 藍田 「榎井ちゃんが貫禄みせてるけど、内田さんもくらいついてるよ」

五反田 「あ、私のイチゴがない」

大川 「知らないっス」

といいながらへタを出す。ムツとする五反田。

五反田 「たかこ、手が汚れちゃった」

大川、新しいおしぼりを五反田に渡す。

五反田 「オオカワ、キャッチ！ キャッチ！」

おしぼりを遠くに投げる。撮りに行く大川。

⑯ 桜 「大川さんかわいそう」

五反田 「大丈夫、大丈夫。本当はやってみたいんですよ」

五反田、坪山に新しいおしぼりを投げる。

坪山 「おしぼりを振りながら)おおかわ」

大川 「ちよつと！」

五反田、盤面を睨み付ける。

五反田「力をこめて」がんばれナライ！」

一 同「おお！（歓声）」

⑩咲馬『どちらにも勝たせたいですね』じゃなかったんですか？」

爆笑。

五反田「内田の玉がトン死する順とかないわけ？」

⑬岬「いきなり詰みかい！」

五反田「見つけなさいよ。あんたプロでしょ」

⑭角田「そんなめちゃくちゃな」

五反田が来て花が咲いたように場が明るくなる。

無表情の杉浦。モニターを見ている。

部屋の隅からモニターを見つめる俊之。

#75 ホテル、対局室

時計が十二時を指す。

立会人「十二時になりました。昼食休憩に入ります。再開は午後一時です」

叡美「はい」

叡美、対局室から出ていく。

理沙子は盤の前から動こうとしない。

#76 ホテル、理沙子の部屋

ベッドに横になっている理沙子。

テーブルには手のつけられていないうどん。

#77 ホテル、叡美の部屋

お茶を飲む叡美。

窓の外を見る。

#78 ホテルから見た女のマンション

小百合は座ったまま動かない。

#79 ホテル、叡美の部屋

叡美。

#80 ホテル、控え室

食後のリラックスしたムード

杉浦は座って詰め将棋を解いている。

何もせずぼんやりとしている俊之。

五反田が棋士⑮と⑱とトランプの「大富豪」をしている。  
棋士⑮、3から7までの続き番号を出す。

⑮青木「3、4、5、6、7。階段！」

⑯百刈「うわっ、強い！」

⑰浅月「パス」

⑱木村友「パス」

残り是一片。

五反田「9、10、じゅういちJ、じゅうにQ、じゅうさんK。階段がえし！」

⑮青木「ちよつと待って！」

五反田「棋士が『待った』なんて言わない！ はい上がり！」  
うなだれる⑮青木。

五反田「なに持ってるのよ」

⑮青木の最後の一枚を覗く。3だった。

五反田「はい大貧民決定！」

杉浦が部屋から出ていく。

杉浦を見る俊之。

#81 ホテル。中庭

俊之、池のまえに座っている杉浦を見つける。

杉浦に近寄っていく俊之。

俊之「杉浦先生」

杉浦「(振り返らず)石塚君……」

俊之「ご無沙汰しています。いいですか」

杉浦「……」

俊之「増岡君は先生のお弟子さんですよ」

杉浦「保育園の頃から内田の道場に通ってた。それで僕が面倒見ることになった」

俊之「強いですね。僕とはものが違う」

杉浦「うちの一門は、数は多いけれど今まで誰もタイトルを取ったことがないんだ。もしも僕や理

沙子さんが取れなければ、増岡が最初のタイトルホルダーになるかもしれない」

俊之「僕は許されなかったことをしました」

杉浦「……」

俊之「後悔しています。明日名古屋に行って増岡くんに直接謝罪してきます」

杉浦「……ありがとう。……増岡も少しは楽になると思う」

俊之、深く礼をする。

俊之「失礼します」

杉浦振り返る。(初めて俊之を見る)



杉浦「石塚君」

俊之「はい」

杉浦「将棋はやめるなよ。……将棋はいいよ」

俊之「……考えておきます」

去っていく俊之。

#82 ホテル、理沙子の部屋

アラームが鳴る。

ベッドに横になっている理沙子。

#83 同、廊下

を歩く理沙子。

大川、棋士たちと楽しげに談笑する五反田と鉢合わせする。

五反田「……」

五反田、理沙子の気迫に押されて道をあける。

理沙子と稲葉農がぶつかる。理沙子がハンカチを落とす。

①9 松永「わざとらしく痛っテエ！」

理沙子、稲葉農をにらむ。

五反田、ハンカチを拾う。

五反田「……………(おや?)」

五反田ハンカチを差し出す。

何も言わず受取り去っていく理沙子。

②0倉崎「なんであの人いつもあなの」

理沙子の後ろ姿を見る五反田。

大川「ねえさん、どうしたの？」

五反田「……………なんでもない」

五反田を見つめる大川。

#84 ホテル、対局室

十二時五十五分。理沙子が入ってくる。

立会人、記録係が所定の位置についている。

下座に正座すると、持ち物を並べる。

立会人「一時になりました。再開してください」

長考に沈む理沙子。

叡美。窓から外を見る。

#85 ホテルから見た女のマンション

小百合がなにかしているのが見える。

#86 マンション、小百合の部屋

小百合、首をつるためのロープを編んでいる。

#87 ホテル、控え室

対局室のモニターを見ている俊之。

窓から外を見ている叡美が映っている。

集中力を欠いているのがわかる。

叡美、対局室から出て行く。

#88 ホテル、控室前の廊下

廊下を歩く叡美。控え室の中から俊之が出てくる。

叡美「あ、トシくん。携帯持ってない？」

俊之「……どこかけるの？」

叡美「うん。ちよつと」

俊之「何考えてんだよ。指し手を教わってると思われるだろ」

叡美「ちよつと来て。(俊之をひっぱっていく)あのマンション見てくれる。六階の左から三番目の

部屋。女の人が座っているのわかるかな」

俊之「……わかった。それが？」

叡美「あの人様子が変なのよ」

俊之「別に普通だろ」

叡美「自殺しようとしてるんじゃないかな……」

俊之「いいかげんにしろよ！」

叡美「……」

俊之「ちよつといい気になってるんじゃないか？ 真面目にやりなよ」

叡美「……」

俊之「今叡ちゃんがいる舞台に、立ちたくても立てない奴がいっぱいいるんだぜ。そういう連中がどんな思いでこの将棋を見ているのか、考えてみたことがあるのか。失礼だよ。自分が破ってきた相手に対して」

叡美「……」

俊之「そして将棋に対して」

叡美「……そうだね。ごめん」

俊之「終局までここで見てるから」

叡美「ありがとう」

きびすを返し、対局室に戻っていく叡美。

#89 ホテル、対局室

叡美、将棋盤の前に座る。

目を閉じてかかしく深呼吸。

心を整えて……………

指す。

47 手目3三桂不成。

#90 ホテル、控え室

モニターに映っている叡美。

モニターの中の叡美を見つめる俊之。

#91 ホテル、対局室

48 手目3三同桂から67手目5四金まで叡美の猛攻。

お互いに盤面を睨みながら深く考えている。

心の中で叡美と理沙子が対話をする。(心はモノクロ画像)

叡美の心「ねえ……………ねえ」

理沙子の心「聞こえてるわよ」

叡美の心「あなた、今苦しんでる？」

理沙子の心「涼しい顔してあなただっけそうなんですよ」

指す理沙子。

記録係が差し手を記入しストップウォッチを戻す。

叡美の心「また危険な道を選ぶの？ 私はあなたと一緒にならどこまでもついていく」

考える叡美。

理沙子の心「私はあなたを痛めつけたいの。めちやくちやに傷つけたいの」

考える理沙子。

叡美の心「いつもいい作品を作ることができる。だからあなたと将棋を指すのは好きなの」

指す叡美。

観戦記者がメモをとっている。

理沙子の心「その冷静なところが嫌い」

叡美の心「人一倍負け嫌いのくせに、心はガラスみたい」

理沙子の心「愛されて育ったのね。貧しくくせに」

指す理沙子。

叡美の心「お父さんのこと憎んでるでしょ」

指す叡美。

理沙子の心「……関係ないでしょ」

指す理沙子。

叡美の心「将棋を指せばあなたがどんな人か理解できるの」

指す叡美。

理沙子の心「私だってあなたのことをよくわかってる」

指す理沙子。

叡美の心「私の方が、もっと深く、あなたを愛している。……だから私が勝つの」

\*

\*

\*

将棋盤の前面に向かい合って座る叡美と理沙子。

叡美、指す。

83 手目 5 人同玉。

理沙子、指す。

84 手目 5 七銀。

叡美、深い考えに沈む。

約一分間の静寂。

指す叡美。

85 手目 6 九金

盤面を見る叡美。扇子を口に当てる。

叡美「……勝った」

# 9 2 ホテル、SHOGI 専門チャンネル大盤解説場

AD からキューが出る。

五反田「再び第二十四期女流名将戦の第五局を中継いたします」

場内拍手。

#93 ホテル、SHOGI専門チャンネルの映像

五反田「画面は対局室の盤面が変わる。現在九十五手目、榎井叡美女流名将が8六同銀と指したところで、内田理沙子女流三段の手番です。」

残り時間は榎井女流名将十二分。対して内田三段三十四分です」

長考する理沙子の映像。

中 倉「盤面はいまからちよつと前の局面ですが、内田さんの8六桂に対し、榎井さんはこれを手抜きして5七金と銀を取りました。以下7八桂成り、同馬」

五反田「こんなところに馬がきいていたんですね。『馬は自陣に引け』という格言がありますね」

中 倉「8六歩、同銀と取ったところが今の局面です」

五反田「形勢はどうでしょう？」

中 倉「すごく難解な局面ですね」

#94 ホテル、控え室

玉井「ねえ」

新菜「(つっけんどんに)なに！」

玉井「どっち勝ってんの？」

新菜「はあ?.....(隣のグループに)どっち勝ってんの？」

振られて首を傾げる岬。

研究に熱のこもる棋士たち。



部屋の隅からモニターを見つめる杉浦、俊之。

# 9 5 ホテル、対局室

長考する理沙子。苦しそうな顔だ。

叡美を見ると涼しげな顔をしている。

理沙子の声「読みきってるの？」

# 9 6 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

中倉と五反田が大盤の駒を動かしている。

# 9 7 ホテル、控え室

棋士たちが駒を動かし白熱した研究が進んでいる。

# 9 8 ホテル、対局室

盤面を見つめる理沙子。

理沙子の声「こう来る、こう来る、こう来る、こう来る、取って、打って、成って、こう来る」

# 9 9 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

中倉「思い切って8六馬でしようか」

五反田 「内田さんはこういう時は守りにはいります」  
中 倉 「なぜですか？」

五反田 「そういう女なんです。それで後悔するんです」

#100 ホテル、対局室  
理沙子の声 「攻めるの？」

#101 ホテル、控え室  
24 櫻庭 「一回受けたほうがいいんじゃないか」

#102 ホテル、対局室  
理沙子の声 「受けるの？」

#103 ホテル、控え室  
25 結城航星 「後手玉は寄らない。8六馬だ」

#104 ホテル、対局室  
理沙子の声 「どっち？」

#105 ホテル、控え室

26 加藤美佐子「いやここは勝負でしょ」

27 百刈「でも相当危ない形だよ」

#106 ホテル、対局室

理沙子の声「どつちななの？」

#107 ホテル、控え室

無言でモニターを見つめる杉浦

#108 ホテル、対局室く#内田敬三九段の家(回想)

カメラ、叡美からパンして、立会人と記録係、理沙子。

理沙子の声「……わからない」

理沙子の背後に少年と少女が現れる。子ども時代の理沙子と杉浦である。その脇で理

沙子の父親・内田九段が見ている。

数手指して投了する理沙子。

少女時代の理沙子「負けました」

少年時代の杉浦「ありがとうございます」

内田「なぜ四五歩などと指した」

少女時代の理沙子「……………すみません」

内 田「なぜその手を指したのかと聞いているんだ」

少女時代の理沙子「……………」

内 田「一手一手にちゃんと意味があるはずだ。なぜ意識しようとしない」

少女時代の理沙子「……………」

内 田「お前は歩を馬鹿にしている。どんなに弱くても一番使う駒だぞ。歩を使ってはじめて他の駒が生きてくるんだ。将棋をなんだと思ってる。天才少女などと呼ばれていい気になるな」

少女時代の理沙子「すみません」

(……………までワンカット)

内 田「そんなんでタイトルが取れると思ってるのか。……………お前には才能がないんだよ」

少女時代の理沙子の声「わかってるわよ！」

理沙子の洋服が変わっている。(時間経過)

少女時代の理沙子「才能がないことなんて、私が一番わかってる」

内 田「……………なんだその口のきき方は」

内 田、理沙子を殴ろうとする。

少年時代の杉浦「先生やめてください」

内 田「杉浦、お前は口出しするな」

突き飛ばされる杉浦。

少女時代の理沙子「いやだ、叩かないで」

逃げようとする理沙子。

\* \* \*

うわああ、と理沙子の泣き声が響いている。

内田と杉浦が将棋を指している。

将棋盤を睨み付けている杉浦。

#109 ホテル、控え室

杉浦(つぶやく)「理沙子さん、守ってください。五六歩です」

モニターを通して、苦しんでいる理沙子を見つめる杉浦。

#110 ホテル、対局室

理沙子の声「わからない……どうしてもわからない」

理沙子の口元が動く。

理沙子「杉浦……」

思わず口に出す理沙子。

叡美「え？」

理沙子、はっとして顔をあげると、叡美が不思議そうにこっちを見ている。

一番聞かれたくない相手に聞かれてしまったのだ。

叡美を睨みつける理沙子。

理沙子「勝負！」

馬を手に取り、盤上に強く打ちつける理沙子。 八六馬。

ピシッと部屋中に駒音が響く。

記録係、記録用紙に八六馬と書く。

#111 ホテル、控え室

無言の杉浦。大きく息をはく。

食い入るようにモニターを見ている俊之。

棋士たち「八六馬！」

#112 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田「まさかの八六馬でした……」

中倉「渾身の勝負手です」

五反田「……男らしい」

中倉「いまトキメキましたね？」

五反田「ちよつと……(我に返って)何言ってるんですか。いまのカットカット！」

中倉「生放送です」

五反田「……」

#113 ホテル、控え室

寺部と荻野の研究の周りに田口と木口。

②8 荻野「八六馬、同歩、八七歩、同玉、九五桂、九六玉、八九飛車成り……この局面でどうする」

②9 木口「同馬は」

②8 寺部「取れない。八七銀で詰んでる」

③0 田口「なんで檜井ちゃんこの順選んだの？」

②8 倉崎「ええ？ あきらめたってこと？」

あらゆる手を研究する棋士たち。

#114 インターネットの画面

次々と書き込まれる掲示板。

#115 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

大盤の駒を動かしながら解説する中倉。

中倉「内田さんの放ったこの八六馬以下、(八九飛車成りまで大盤を動かす)こうなる局面が予想されます」

五反田、同馬と取る。

中倉八七銀と打つ。

中倉「そうすると詰まされます。この時に檜井さんにいい手があるんでしょうか……」

五反田「ないんですか？」

中倉「うーん」

五反田「(5三桂を打ち)『王手!』ってだめですか？」

中倉、黙って桂馬を元に戻す。

五反田「……………(ひきつった笑顔)」

#116 ホテル、控え室

③① 玉井「どうなってるんだ!? これ!？」

③② 藍田「8九飛車成りの局面で手がなければ内田の勝ちだよ」

目を閉じている杉浦。

杉浦がつぶやく。

杉浦「……………5三桂」

③③ 倉崎「5三桂? だからそれはないでしょ」

杉浦「5一玉なら5二歩、5二玉なら6三角、左に逃げれば馬に捕まる」

③⑤ 咲馬「王手すればいいってもんじゃないでしょ。あれ?……………寄ってね?」

周りの棋士たち注目する。

③④ 結城航星「……………(周りに)オイ! 寄ってるよ!」

棋士たち集まってくる。

\*

\*

\*

\*



激しく駒を動かす咲馬と結城航星。

どうやっても後手玉は捕えられる。

③⑤ 櫻庭「寄ってる」

③⑥ 角田「寄ってる」

③⑦ 木村「寄ってる」

③⑧ 笹平「寄ってる」

浅月「寄ってる」

棋士たち「ウソだろ！」

杉浦。

#117 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

中 倉「そうですか……馬がいいところにいるんですね。守りの駒だったはずが攻めにきいていました」

五反田「樽井、勝ち？」

中 倉「ええ」

五反田「(嬉しそうに)内田、負け？」

中 倉「私に振らないでください」

#118 ホテル、対局室

指し手は進み「問題の局面」に近づいていく。

叡美指す。 8六同歩。

理沙子の声「どうしてもっと時間を使わないの？」

理沙子、恐る恐る指す。 8七歩。

間髪いれずに叡美指す。 同玉。

理沙子の声「この順だと私の勝ちになるはずよ。違うの？」

理沙子、恐る恐る指す。 9五桂。

間髪いれずに叡美指す。 9六玉。

理沙子の声「何かあるの？ 私の知らない手が」

理沙子、恐る恐る指す。 8九飛車成り。

そして問題の局面。

理沙子の声「どうなるの？ 知らないのは私だけなの？」

理沙子、叡美を見る。

叡美、目を閉じて考えている。

#119 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田「さあ、問題の局面です。ここで樽井さん5三桂と打てるでしょうか」

#120 インターネットの画面

次々と書き込まれる掲示板。

# 1 2 1 ホテル、対局室

目を閉じて考えている叡美。

追い詰められた表情で盤面を見つめる理沙子。

# 1 2 2 ホテル、控え室

モニターを凝視する俊之。

モニターを凝視する杉浦。

# 1 2 3 ホテル、対局室

記録係「檜井女流名将。持ち時間を使い切りましたので、これからの指し手一手六十秒以内でお願いします。十秒……」

叡美。

理沙子。

記録係「二十秒」

# 1 2 4 ホテル、控え室

目をとじる杉浦。

俊之。

# 125 ホテル、対局室

記録係「三十秒」

# 126 ホテル、大盤解説場

五反田。

# 127 ホテル、控え室

棋士たち。

# 128 ホテル、対局室

記録係「四十秒」

# 129

棋士たち。

# 130 パソコンの画面

「女流名将戦」インターネット中継のホームページ。

次々に書き込まれる掲示板。

# 131 ホテル、対局室

記録係「五十秒一・二・三・四」

理沙子

記録係「五・六・七・八・九」

叡美、駒台から持ち駒の桂馬を取る。

怯えている理沙子。

理沙子の声「桂馬？」

叡美、静かに5三の地点に桂馬を降ろす。

理沙子の声「うそ？」

記録係、一一三手目「5三桂」と書く。

何が起こったか把握できない理沙子。

# 132 ホテル、控え室

杉浦。

# 133 ホテル、対局室

理沙子、盤上を睨みつけて考え込んでいる。

勝ちを確信した叡美。理沙子を一瞥すると窓の外を見る。

# 134 マンション、小百合の部屋

部屋の真ん中にいすを置いて、その上に乗る。

天井照明をはずす。

天井にロープをかける。

ロープの輪を首にかける。

# 135 ホテルから見えるマンション

輪の中に首を通そうとする小百合。

# 136 ホテル、対局室

窓から外を見ている叡美。

# 137 マンション、小百合の部屋

小百合の足、震えている。

小百合、椅子を蹴ることができないでいる。

# 138 ホテル、対局室

叡美、立ち上がり部屋から出ていく。

立会人、記録係、観戦記者(時間がないのに)驚いて叡美を見る。

#139 同、外

草履をはく叡美。

#140 ホテル、控室

③9 柴崎「あれ？ 檜井さんが出ていきましたよ」

俊之「……………」

#141 ホテル、控室前の廊下

叡美、走って行く。

エレベーターの下がるボタンを押す。なかなか来なくていらいらする。

俊之が控室から顔をだす。

俊之「叡ちゃん！」

エレベーターが到着する。

叡美、申し訳なさそうに俊之を見るが、エレベーターに乗り込む。しまる扉。

#142 ホテル、控え室

騒然となる。

# 143 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田「榎井さん何かあったんでしょうか？（ADに）なにかあったの？」

AD首を傾げる。

# 144 ホテル、入口

走って出ていく叡美。

# 145 道

を走る叡美。

# 146 マンション

の中に入っていく叡美。

# 147 マンション、エレベーター

閉まりそうになっていたところに滑り込む。

# 148 ホテル、対局室



考え込む理沙子。

理沙子の声「5三桂?……」

呆然として盤上を見る理沙子。

#149 マンション、小百合の住むフロア。

エレベーターを降りて走ってくる叡美。

小百合の部屋は鍵が掛かっている。ベルを押しても応答はない。

叡美、となりの部屋に行きベルを何度も押す。

主婦・矢部千鶴が出てきて、いぶかしげに叡美を見る。

千鶴「なにか?」

叡美「入れてください。となりの人が自殺しようとしています!」

千鶴「え?」

叡美「(しどろもどろに)外から……中が……」

千鶴(さえぎって)「入って。あの娘最近様子が変だったのよ」

千鶴、チェーンをはずし叡美を中に入れる。

#150 マンション、千鶴の部屋、小百合の部屋

叡美、ベランダに出る。

非常壁を破って、小百合の部屋に入る。

叡美「…………。馬鹿なことはやめて」

小百合、台の上に立ち、天井から吊るされたロープを首にかけている。

小百合「あなたによ…………来ないで」

叡美「死ぬ気なんてないんでしょ」

小百合「あなたに何がわかるっていうの」

叡美「どれだけの人が迷惑すると思ってるの」

千鶴、フレームアウト。

叡美「…………大丈夫だから」

小百合「お願い…………来ないで」

ゆっくりと近寄る叡美。

小百合「…………死なせて」

叡美「…………」

千鶴が後ろから小百合の体を抱きかかえる。

もみあいになる三人。

叡美、縄を小百合の首から外す。天井からロープを力づくで剥ぎ取って、窓から外に捨てる。

千鶴が小百合の体を押さえつけている。

叡美「あなた、靴のサイズいくつ？」

小百合「は？」

叡美「急いでるの!」

小百合「……………23」

叡美「借りるわよ。(千鶴に)すみませんが、あとお願いします。私どうしても行かなくちゃいけないです」

千鶴「ちよつと待ってよ」

叡美、玄関でスニーカーをはく。部屋から出ていく叡美。

#151 マンション、エレベーター前

なかなか来ないエレベーター。階段を下りていく。

#152 ホテル、対局室

主のいない上座。考え込んでいる理沙子。

理沙子の声「5七金の時にこの手を知っていたの? もしかしてもっと前から? ……信じられない」

#153 ホテル、控え室

④ 木口「おい、このまま投了するつもりじゃないのか?」

杉浦「どこか指せば勝ちになるじゃないですか!」

#154 階段

走り下りる叡美。

# 155 ホテル、対局室

なかなか指さない理沙子。負け筋であることに気がついたのだ。

理沙子の声「5一玉？」

# 156 ホテル、控え室

5一玉の変化を並べる志波と玉井。

④ 志波「見事に寄つてる」

# 157 ホテル、対局室

理沙子の声「5二歩に同玉は？」

# 158 ホテル、控え室

5二歩、同玉の変化を並べる祥と青木。

④ 祥「だめ」

# 159 ホテル、対局室

理沙子の声「3一玉は？」

# 160 ホテル、控え室

3 一玉の変化を並べる荻野と新菜。

④ 荻野 「いいところに馬がいるよ」

# 161 ホテル、対局室

理沙子の声 「4二銀で6二玉は？」

# 162 ホテル、控え室

4 二銀で6二玉の変化を並べる岬と加藤美佐子。

④ 岬 「手数<sup>てすう</sup>は長いけど簡単」

# 163 欠番

# 164 欠番

# 165 ホテル、対局室

理沙子(つぶやく) 「……逃げられない」

どう考えても自玉は詰まされる。

理沙子「私はもう、どこにも逃げられない」

引きの映像。理沙子だけが影で黒くなっている。

#166 道

ホテルにむかつて走る叡美。

#167 ホテル、対局室

ストップウォッチが60秒をすぎる。

記録係「内田三段。持ち時間を使い切りましたので、これからの指し手、一手六十秒以内でお願いします。……十秒……」

理沙子、盤上を見つめたまま動かない。

#168 ホテル、控え室

モニターを見つめる杉浦。

(杉浦と理沙子のカットバック。直接話をしているように)

杉浦の声 「指して！」

#169 ホテル、対局室

盤を見つめる理沙子。

理沙子の声 「指せない！」

記録係 「二十秒」

冷徹に秒を読む記録係。

# 170 ホテル、控え室

杉浦の声 「指して！」

# 171 ホテル、対局室

理沙子の声 「嫌。ぜつたいにいや！」

記録係 「三十秒」

# 172 ホテル、控え室

杉浦の声 「指して！」

# 173 ホテル、対局室

理沙子の声 「こんなの勝ったことにならない」

記録係 「四十秒」

# 174 ホテル、控え室

杉浦、モニターにむかって叫ぶ。

杉浦「指せよ！ なんでもいいから指せ！」

#175 ホテル、対局室

記録係「五十秒一、二、三、四、五」

理沙子、体の奥からしぼり出すような声で叫ぶ。

理沙子「お願いだから許して……」

指せない理沙子。

記録係「六、七、八、九」

理沙子の手が動いた。

打たれた桂馬を指ではじく。

畳の上に落ちる桂馬。

桂馬のあったマスに歩をひとつ動かす。

升目に添って綺麗に並んでいる駒の中で、今指した三五の地点にある歩だけが斜めに

ゆがんでいる。

記録係、ストップウォッチをもどす。記録用紙に「同歩」と書く。時間内と認められ

たのだ。

理沙子震えている。

記録係「十秒……」



理沙子。

記録係「二十秒……」

対局者のいない上座。黙々と秒は読まれる。

#176 ホテル、前

叡美、走る。中に入っていく。

#177 ホテル、対局室

記録係「三十秒」

#178 ホテル、廊下

対局場に向かって走っていく叡美。

#179 ホテル、対局室

記録係「五十秒一、二、三、四、五、六、七、八、九……」

#180 ホテル、控え室

俊之

#181 ホテル、大盤解説場

五反田と中倉

#182 ホテル、控え室

研究の棋士たち

#183 ホテル、控え室

杉浦

#184 ホテル、廊下く対局室

叡美、対局室の中に入る。

その瞬間……。

記録係「十」

動きづけるストップウォッチ。

……叡美の時間切れ負け。

その場にしゃがみこむ叡美。

理沙子。

#185 ホテル、対局室

記録係「以上百十四手を持ちまして内田三段の勝ちとなりました。ありがとうございました」

理沙子「ありがとうございました」

理沙子、そそくさと自分の持ち物を片付け始める。

叡美、気分を取り直し将棋盤の前に座る。

叡美、深々と頭を下げる。

叡美「負けました」

理沙子、叡美と顔を合わせようとしない。

記録係、記録用紙に「時間切れ」と書きこむ。

ふすまが開けられマスコミが続々と中に入ってくる。

理沙子のタイトル奪取。フラッシュがたかれる。

通常は勝者のインタビューと感想戦が始まるのだが、理沙子は席を立ち出て行こうとする。

女新聞記者「内田さんおめでとうございます。新しい女流名将になった心境を」

理沙子、それには答えずふすまの音を「バン」と大きな音を立ててあけて出て行く。

座ったまま将棋盤の前から動かない叡美。

マイクが一斉に向けられる。

新聞記者2「榎井さん、どこに行かれてたんですか？」

答えない叡美。

#186 ホテル、SHOGI専門チャンネル大盤解説場

五反田 「最後はハプニングがありました。最後の最後まで手に汗握る名勝負でした。内田理沙子  
女流名将が誕生しました。これからの女流棋界からますます目が離せなくなりましたね。そ  
れではこのへんでお別れです。先生ありがとうございました」

中 倉 「ありがとうございました」

五反田 「それでは失礼します。さようなら」

A D 「CM入りました。お疲れ様です」

五反田の清楚な笑顔が一変する。

五反田 「何やってんのよ！ ナライちゃんは！」

#187 ホテル。理沙子の部屋

#188 窓から見えるマンション 矢部千鶴の部屋  
のカットバック

窓から外を見ている理沙子。対局と同じ姿勢。

理沙子が見ているのは千鶴の部屋だ。千鶴の夫と小さな娘が仲良く遊んでいる。  
父と子を見つめる理沙子。

……あ、あぶない。

……よかった。

一瞬みせる笑顔。理沙子が初めて見せる柔らかな表情

夕食ができたのか。千鶴が二人を呼びに来る。  
部屋の明かりが消える。

一人残される理沙子。

理沙子「……………将棋なんて、大嫌い」

#189 ホテル。理沙子の部屋 ドア

ノックする杉浦の手。こんこんと静かに。

#190 ホテル。理沙子の部屋く廊下

出ようか、無視しようか……………。

逡巡した後ドアをあける。

やはり杉浦だった。

理沙子「なんか用？」

杉浦「……………おめでとうございます」

瞳から大粒の涙がポロポロと流れてくる。

理沙子「負けたのに……………弱いのに……………明日から『女流名将』って呼ばれるのよ……………」

杉浦「……………全ての指し手に……………魂がこもっていました」

理沙子の顔がくしゃくしゃに崩れていく。

杉浦の胸に抱きつく理沙子。

理沙子「うわああああああ」

泣き崩れる理沙子。

杉浦「素晴らしい将棋だったじゃないですか」

理沙子を強く抱きしめる杉浦。

#191 吉田の部屋

そこはかつて叡美と俊之が内弟子時代をすごした場所。

ちゃぶ台にグラスが四つ並んでいる。

紀美子がビールを持ってくると、師匠の吉田がそれを取り、向かい合っていた俊之のグラスにそそぐ。

俊之「頂きます」

静かに言うと、ビールを飲み干す俊之。

俊之、座布団を降りて頭を下げる。

俊之「吉田先生。紀美子さん。叡ちゃん。十一年間ありがとうございました」

#192 同

真剣勝負の俊之と叡美の三十秒将棋。秒読みを師匠がつとめている。

吉田「一、二、三、四、五」

叡美が指す。

吉田「一、二、三、四、五」

俊之「負けました」

叡美「ありがとうございました」

白熱した将棋は叡美の勝ちに終わる。

叡美「……8二に飛車成ったところで、最初にと金寄ってれば……」

吉田「それだったら俊の勝ちだったなあ」

俊之「そっかあ。気づかなかった」

吉田「俊、俺と一局指そう」

俊之「是非お願いします」

俊之と吉田が平手で将棋を指し始める。

### #193 道

洗面器を持って銭湯に向かう四人。叡美と紀美子が腕を組み、その横に吉田。俊之は後ろから三人を見ている。

実の親子のように仲が良い叡美と紀美子。

### #194 道(回想)

十二年前。

吉田、紀美子、少女時代の叡美と俊之が銭湯帰りの道を歩いている。俊之は一人後ろ

を歩いている。

吉田、紀美子、叡美が振り返る。

吉田「どうしたトシ」

紀美子「トシくんおいで」

少女時代の叡美「遅い」

少年時代の俊之「……………」

#195 道

俊之、その場にうずくまる。

泣き出す。

三人、俊之に気づく。

紀美子駆け寄ってくる。

紀美子「トシくん」

俊之「僕はもう……………棋士にはなれないんですね」

紀美子、俊之を背中から抱きしめる。

紀美子「ごめんね……………ごめんね」

涙ぐむ吉田と叡美。

#196 小百合の部屋



叡美と俊之が自殺未遂をした木下小百合(28)を見舞う。

三人は向き合って座っている。ぼんやり外を見ている小百合。

叡美、何を話せばいいのかわからなくて窓から外を見る。対局場だったホテルが見える。

小百合「大事な対局を私がめっちゃくちゃにしたんですってね」

叡美「勝つべき人が勝って、負けるべき人が負けた。そういうことです」

小百合「…………誰にも見つからないような山奥とか、他人に迷惑のかからないところで死ねばよかった」

叡美「死ねばいい命なんてひとつもないです」

小百合「(鼻で笑って)無責任なこと言わないでくれます。『生きていけばいつかいいことがあるよ』

とか、聞き飽きてるんですよね」

叡美「……………」

小百合「こうなることは最初からわかっていました。…………もうこれ以上進んだら元には引き返せないっていう場所があるんですよ。私はそれを若さにまかせて踏み越えてしまったの。簡単にもとに戻れるって思ってた。でも、その時のことを知っている人が何人もいるの。だから私はもう踏み越えたまま生きていくしかないの…………別の話しましょ」

俊之「あのお……………」

小百合、俊之を見る。

俊之「将棋指してみませんか？」

小百合「将棋？……なにそれ？」

俊之「中盤、終盤と局面が難しくなってくると、頭の中から将棋以外のことが全部消えちゃうことがあるんです。自分じゃなくなるんですよ。一日に一瞬でも苦しみを忘れることができれば、ちよつとは楽になるんじゃないかな」

小百合「忘れる？ そんなことできるわけないじゃない」

俊之「気持ちいいですよ。全てを奪いさられるって」

小百合「……」

俊之「将棋って、……やさしいですよ」

小百合「……まさか」

笑う小百合。

叡美、俊之を見る。

#197と198 お別れのシーン

楽園の中で誰にも傷つけられることもなく生きてきた。

そんな生活も終わりを迎えることになった。

ちよつと遅い成人式だ。

いまの場所を去り、大人にならなければならない。

二人はひたすら笑い続ける。

歩きながら、はしゃぎながら、ジャンプしたり、芸をしたり……。

笑いながら話し続ける叡美。

笑いながら話し続ける俊之。

いつまでも、いつまでも、いつまでも、ふたりは笑い続ける。

子どもの時間が終わろうとしている。

俊之は心の中で叫び続ける。

さようなら、おさななじみ。

さようなら、私の愛する人。

榎井叡美のストップモーション。

### #199 将棋会館、前

叡美と五反田が会う。後ろに重い荷物を持った大川。

五反田「あらあ、榎井ちゃん」

大川「姐さん、遅れちゃうよ」

五反田「おまえは時計止めてろ！（叡美に）よかったね、あの人。命に別状なかったんだって」

叡美「元気になってくれればいいんですけど」

五反田 「控え室の誰かに行かせればよかったのよ。そうしたらあの女、無冠のままだったんだから」

叡 美 「いいことあったみたいですね」

五反田 「誰に聞いたのよ」

叡 美 「みんな言ってますよ。五反田さん恋してるって」

五反田 「……そうなのよ！（力を込めて）今度こそ、こそ、こそ！」

叡 美 笑う。

五反田 「近いうちに榎井ちゃんの特集組むからさ。またお願いね」

叡 美 「内田さんにしたらどうですか。タイトル取ったんだし」

五反田 「内田理沙子？ どうしても出たいっていうなら出してやってもいいけど」

二人 笑う。

五反田 「じゃあね」

去っていく五反田。

叡 美 「大川さん」

立ち止まる大川。

叡 美、元気を出して！ と慰めのガッツポーズ。

大川、胸に手を当てる。（ハートブレイク）そして笑顔。

五反田、腕時計を叩きながら。

五反田 「オオカワ！ ダッシユ、ダッシユ」

走り去っていく五反田と大川。

大川「ちょっとは持ってくださいよ」

叡美、笑う。

#200 同、子ども将棋教室

子どもたちに棒銀戦法の解説をしている叡美。

叡美「飛車の前にするすると銀を伸ばしていけば、二三銀成り、同金と銀を取られても、同飛車成り。ほら、相手陣を破ることができるでしょ。これが棒銀戦法の基本よ。わかったかな？」

子ども「わからん」

叡美「わかったでしょ！」

一同笑う。

叡美「じゃあ、みんな、……」

子どもたち。

叡美「将棋指そうか」

子どもたちの「よろしくお願いします」の声が部屋中に響く。

子どもたち、二人一組となって、将棋を指し始める。

目を輝かせている子どもたち。

#201 道

帰り道。

将棋会館近くを歩いている叡美。

前から理沙子が歩いてきた。叡美、理沙子の前に立つ。

理沙子を見つめる叡美。

叡美を睨みつける理沙子。

叡美、理沙子に深々と礼をする。

何も言わず叡美を睨みつける理沙子。

叡美、理沙子の言葉を待つ。

理沙子、左手を上げると、叡美の頬に打ちつける。

——ピシッ！

頬を押さえる叡美。理沙子を見る。

理沙子、叡美を睨みつけると、何も言わずに去っていく。

将棋会館に向かって凜として歩いていく理沙子の後姿を、いつまでも見ている叡美。  
フェイド・アウト。

エンドロール流れて。

了